倫理学

**中間テストに出る！！！** 関野吉晴　誰かとの対談の本をテストに出す。＜グレートジャーニー＞

アリストテレス

正義

* 分配・交換
* 平等

愛

* 贈与
* 不平等

→ 分配・交換による平等な正義も（調整的正義）大事だが、愛に基づいた不平等な贈与、献身というものもインセンティブとかで必要である（配分的正義・**愛**）。

世界中を旅したゴビノーの「人種不平等論」はダイバーシティーを謳っていた！人間多様でいいじゃないか　But 人種差別者のバイブルとなってしまった。

関野さんと山際さん：

* チンパンジーは群れの論理を作ったがファミリーの論理を作らなかった
* ゴリラはファミリーの論理っぽいものを作ったがコミュニティーの論理をつくらなかった
* 人間はファミリーの論理とコミュニティの論理をいずれも持っている（ゴリラとチンパンジーのコンフリクトを止揚させた dialectic）。人間だけがどちらも持つことができた（関野さん）
* 合田先生は人間は相反するこの二つの概念の間で引き裂かれており、まだ完全には使用できているとは限らないという見解を示している。相反の中での人間というテーマ。自他の分かれ目。自国民と他国民。

**ダブルバインド**(schizophrenia, 分裂症)。

* Schizophrenia を用いてこれまでの本質的な二分的、二元的な社会分裂や倫理的分裂を説明できる？矛盾、相反、重要なテーマ。
* ファミリー＝アリストテレスの愛の概念、コミュニティ＝アリストテレスの正義の概念。
* サルトルの例： Existentialism is Humanism
  + 兄の仇でレジスタンスに入りたいけど弱い母親を見捨てたくないというジレンマを抱えた青年に向けた言葉：創造せよ。
  + ダブルバインドでいずれかを選択するのではない、それを止揚するなりなんなりして克服しなくてもいい、だがその真ん中で苦しみもがけ。それが人間だ。
  + 実存主義：論理的人間と不条理（absurde, death）の間の葛藤。ダブルバインド。

コスモポリタニズム – 愛とは対照的な位置にある。ストア派

法の語源はノモス（人為）← ネメイン（分ける、nomad の意味を持つ）

法というものはこんなにドメスチックでいいのか？地域的に正義が法の形で姿を変えていていいのか？

ストア派はコスモポリタニズムを創立 – 自然法、万民法、普遍法の起源

Gilles Deleuze ストア派、自殺したがストア派はじさつOK. Freud も安楽死を選んだ。モンテーニュ、スピノザ、デカルト、ヒュームもストア派的な思想を持つ。

ストア派：自己の領域と他者の領域をしっかり分割し、他者のビジネスに首を突っ込まない。自分に戻れ。今の人間は他者のことばかりを気にかけ自分があばら屋となってしまっている…

他者など、あるものから離脱し、孤立するかのように見えても、コスモポリタニズムのように、距離を置くことでより高次な合体、共同が存在する。その源流にある思想：全体の部分でしかないものが全体には収まらないものを持っている。